

<b>授業科目名</b>	教職表現力演習 (2100302)		
<b>時間割名</b>	教職表現力演習 (52107)		
<b>時間割担当</b>	伊崎一夫		
<b>実施期</b>	通年	<b>単位数</b>	1 選択
<b>曜日・時限</b>	金・2		

### 授業の目標・概要

教職表現力演習 で培った文章の設計図（アウトライン）の作成や教育小論文作成の基本である 教育課題の分析 論の構成 具体策の立案 のさらなる定着を図る。さらに教育小論文を書く力を発展させて、プレゼンテーションやグループ討議の具体的な手法について学ぶ。ここでは、具体的な資料を提示し、根拠を明らかにして筋道を立てて話す力を養うとともに、相手の考えを自分の表現に生かす手法を身につける。

### 学習の到達目標

- ・ 教育課題の分析 論の構成 具体策の立案 を活用し、教育小論文の概要を書く。
- ・ 教育小論文を発展させ、プレゼンテーションやグループ討議、パネルディスカッションに取り組む。
- ・ 自己評価の規準（＝論文のモノサシ）を教育小論文だけでなく、プレゼンテーションやグループ討議にも適用する。

### 授業方法・形式

1. 授業の課題に応じて文章を書く。さらに、相互評価・自己評価・教員からの評価をもとに表現をより良くする。
2. 必要に応じて、資料やワークシートを用意する。

### 授業計画

- 第1～2回 教育小論文の書き方をふりかえろう  
（これまでに学んだ教育小論文の書き方をふりかえり、学習の見直しを持つ。）
- 第3～4回 自分の文章を見直し、長所と苦手をつかもう  
（自分の教育小論文を見直し、自身の文章作成上の課題や問題点を明らかにする。）
- 第5～6回 文章力向上のためのめあてを持って、教育省論文を書こう  
（前回明らかになった、自身の長所や課題をもとに、めあてを立て、教育小論文を作成する。）
- 第7～8回 論文批評会で互いの文章を磨き合おう  
（論文批評会を通して、互いの課題を克服するための具体的な手法を討議する。）
- 第9～10回 論文のモノサシ を磨こう  
（論文批評会をもとに、自身の自己評価の規準（＝論文のモノサシ）をより具体的なものに作り直す。）
- 第11～12回 プレゼンテーションの基礎を知ろう  
（プレゼンテーションの基本的な考え方や資料の作成について学ぶ。）
- 第13～14回 教育課題についてのプレゼンテーション原稿を作ろう  
（教育小論文の書き方を応用して、教育課題についてのプレゼンテーション原稿を作成する。）
- 第15～16回 説得力のある話し方についてつかもう  
（前回書いたプレゼンテーション原稿をもとに、プレゼンテーションの練習に取り組み、説得力のある話し方について学ぶ。）
- 第17～18回 プレゼンテーション発表会を開こう（1）  
（互いのプレゼンテーションを聞き合い、良かった点や改善すべき点について話し合う。）
- 第19～20回 プレゼンテーション発表会を開こう（2）  
（発表会に取り組み、説得力のある話し方や資料の提示の仕方について整理する。）
- 第21～22回 グループ討議の準備をしよう  
（グループ討議の進め方や、具体的な手法について学ぶとともに、教育小論文の書き方を応用して自分の考えをまとめる。）
- 第23～24回 グループ討議を開こう（1）  
（討議者と評価者に分かれて、グループ討議を行い良かった点や改善すべき点について話し合う。）
- 第25～26回 グループ討議を開こう（2）  
（前回と役割を入れ替えて、グループ討議を行う。）
- 第27～29回 グループ討議を振り返ろう  
（グループ討議を振り返り、主な改善すべき点を明らかにし、ロールプレイ等を通して具体的な手法をとらえる。）
- 第30回 授業の総括として、これまで身につけたことをもとにして、 表現力のモノサシ をまとめる。

### 成績評価の基準

毎回の授業中に書くワークシートや小論文を中心に評価し、授業に対する理解度をチェックしていく。（30％）さらに、プレゼンテーション発表会やグループ討議への参加や相互評価カードへの記入の仕方を評価する。（30％）教育小論文を学期末に提出し、総合的な文章力を確認する。（40％）

### 準備学習・復習及び授

1. 各講義における課題をシラバスで理解する。
2. 現代教育課題に関心を持ち、関連する書籍や新聞記事を継続して読む。
3. 教育上の諸課題に関連する自らの体験（小・中・高での体験やボランティア、実習等）について文章でまとめておく。

### 履修上のアドバイス及

授業で、文章を書く時には、集中して取り組む。各時間の課題等については、確実に提出する。なお、資料の予備配付は行わないため、欠席の場合は各自で対応する。

## 教材・教科書

必要に応じて資料等を配布する。

## 参考書

- 「大学生のための日本語表現実践ノート（風間書房）」
- 「大人のための国語ゼミ」（山川出版社）」